

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2025年/令和7年
第489号

11月号
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290



第15回女子U18ワールドカップファイナル(2025.9.27~10.1/アメリカ・オクラホマシティ)

C o n t e n t s

・第15回女子U18ワールドカップファイナル……………2	・第54回日本男子リーグ第4節……………22
・天皇盃 第71回全日本総合男子選手権大会……………4	・ニトリ JD.LEAGUE 2025 第12節~第14節・予備節…26
・皇后盃 第77回全日本総合女子選手権大会……………6	・第58回日本女子リーグ第4節……………32
・第79回国民スポーツ大会……………8	・令和7年度第3回理事会議事録……………36
・第17回全日本エルダー大会……………14	・ソフトボールシーズンクライマックス!……………40
・日本スポーツマスターズ 2025……………16	
・第20回全日本ハイシニア大会……………18	・事務局だより……………42
・第39回全日本シニア大会……………20	

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

◎第15回女子U18ワールドカップ ファイナル◎

令和7年9月27日（土）～10月1日（水） アメリカ・オクラホマシティ



王座返り咲きならず…
 アメリカの5連覇を許す



選ばれしU18日本代表が世界にチャレンジ！

女子ソフトボール・ジュニアアカデゴリー「U18」（18歳以下）における「世界一の座」を競う「第15回女子U18ワールドカップファイナル」が、去る9月27日～10月1日、アメリカ・オクラホマシティにて開催された。

女子U18ワールドカップ「最終決戦」の舞台となる今大会には、A・B・Cの各グループステージを勝ち抜いた6チーム（グループA突破2チーム…チャイニーズ・タイペイ⑤、チエコ⑩／グループB突破2チーム…日本①、中国⑦／グループC突破2チーム…アメリカ②、カナダ④）にワイルドカード2チーム（プエルトリコ③、メキシコ⑧）を加えた合計8チームが出場。

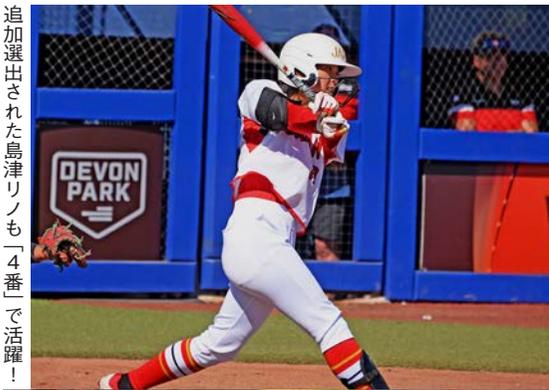
※○数字は大会開催時の世界ランキング



王者・アメリカの牙城を崩せず…

2013年第10回大会以来の「王座奪還」をめざす女子U18日本代表は、オープンングラウンド(予選リーグ)グループBを3戦全勝(チェコに9-2、メキシコに13-0、プエルトリコに8-1で勝利)の1位通過。スーパールラウンド(2次リーグ)を2勝1敗(アメリカに4-5で敗れたが、中国に5-0で勝利。オープンングラウンド同グループ・メキシコ戦の勝利を持ち越し、2勝1敗)の2位で終え、最終日・ワールドチャンピオンシップファイナル(優勝決定戦)で「スーパールラウンド1位」アメリカと「再戦」。

そのチャンピオンシップファイナルでは、日本が序盤先制点を奪ったものの…「痛い守備の乱れ」から失点。逆転を許す展開に…。最終スコア2-1で敗れ、優勝にはあと一歩届かず、「準優勝」という成績に終わった。



追加選出された島津リノも「4番」で活躍!



日本の「エース的役割」を担った山本心音



ここがゴールではない。TOPカテゴリでの「世界一」をめざして!!

「女子U18ワールドカップ ファイナル」詳細 日本戦試合レポート&現地レポートは



こちら!



天皇盃 第71回全日本総合男子選手権大会

令和7年9月20日（土）～23日（火・祝）※雨天のため一日順延
 神奈川県伊勢原市・厚木市・相模原市／総合運動公園いせはらサンシャインスタジアム 他
 記録提供：神奈川県協会記録委員会



【大会概要】



今大会は9月20日（土）～23日（火・祝）の4日間（※雨天のため一日順延）にわたり、神奈川県伊勢原市・厚木市・相模原市の3市4会場を使用して開催された。

この全日本総合男子選手権大会は、日本男子ソフトボールにおける実業団、クラブ、大学チームが参加し、文字通り「日本の頂点」を競う「国内最高峰の大会」として開催されており、前回の「第70回大会」から「天皇盃」の冠を御下賜いただき、その「栄冠」を勝ち獲るべく、全国の精鋭32チームがしのぎを削った。

- 大会初日（20日／土）、1回戦16試合が行われる予定であったが、午後からの降雨により、相模原市・横山公園野球場（D球場）の第3試合・第4試合が中止・順延。大会2日目（21日／日）から変則的なスケジュールを余儀なくされたが、予備日（23日／火・祝）を使用して、無事全日程を終了することができた。
- ベスト4には、Honda（栃木）、トヨタ自動車（愛知）、ジェイテクト（徳島）、三重ヴェルデウィン（三重）とすべて「日本リーグ所属チーム」が勝ち上がり、栄えある「天皇盃」をかけ、最後の戦いに挑んだ。

〈準決勝〉トヨタ自動車 0-2 Honda

「主砲」坂田大士の一発で決勝進出



トヨタ自動車・小野寺翔太、Honda・池田空生の「両日本代表投手」が先登板。試合が動いたのは4回裏、Hondaは一死から2番・遠畑光希が二遊間を抜く安打で出塁し、ワイルドピッチ、パスボールで三塁まで進塁。二死後、4番・坂田大士が初球を狙い打ち、センター頭上を越えるツーランホームラン！「キャプテン」の値千金の一発で先制し、結局この2点が決勝点となった。

一方、トヨタ自動車は初回の二死三塁、6回表の二死二・三塁のチャンスを生かせず、完封負け。先登・小野寺翔太、2番手・八木孔輝がHonda打線を3安打に抑えながらも、打線の援護なく……準決勝敗退となった。

〈準決勝〉ジェイテクト 4-0 三重ヴェルデウィン

先攻のジェイテクトは初回、三重ヴェルデウィン・酒井匠を攻め、1番・眞茅大翔が安打で出塁。盗塁、四球で無死一・二塁とし、3番・大川竜志の二遊間を抜くタイムリーで1点を先取。次打者のショートゴロで一死一・三塁となった後、5番・大西泰河にも三遊間を破るタイムリーが飛び出し、2点目。さらに連続四死球による押し出しで1点、ワイルドピッチでもう1点を追加し、この一回一挙4点を先制。投げては、力投を続ける「エース」大西泰河が被安打3・奪三振10の投球内容で三重ヴェルデウィン打線に得点を許さず、完封勝利！初の決勝へ駒を進めた。



「魂のエース」大西泰河が完封！決勝へ

《決勝》Honda 4-1 ジェイテクト

ジェイテクトは準決勝に続き「魂のエース」大西泰河が先登板。対するHondaも、「開催地・伊勢原市出身」池田空生を連投させ、試合がスタートした。

先攻のHondaは初回、1番・川島大空、2番・遠畑光希、3番・福田空脩の三連打でいきなり無死満塁と塁上を埋め、4番・坂田大士のライトへの犠牲フライでまず1点を先制。

ジェイテクトもその裏、連続四球で無死一・二塁とし、一死後、4番・天田竣介のショートへの当たりが敵失となる間に、二塁走者が一気にホームイン！すぐに1点を返し、1-1の同点とした。

その後、Hondaは3回裏に池田空生から長井風雅へ継投。ジェイテクトもエース・大西泰河が走者を背負いながら勝ち越し点を許さず、1-1のまま延長タイブレークへ突入。

迎えた8回表、Hondaはタイブレークの走者を二塁に置き、2番・遠畑光希は四球で無死一・二塁。3番・福田空脩がショートを強襲する当たりを放ち、この間に二塁走者が一気に生還！なお無死二・三塁の好機が続き、4番・坂田大士の二遊間をしぶとく破るタイムリーで2点目。次打者のファーストゴロで一死二・三塁となった後、6番・高浪雄大がレフトへ犠牲フライを打ち上げ、もう1点を追加し、この回大きな3点を勝ち越した。

守っては、3回裏から登板し「奪三振ショー」を続ける長井風雅がその裏のジェイテクトの攻撃を三者連続三振に斬って取り、歓喜爆発！Hondaが「2年ぶり6回目の優勝」をつかんだ。

優勝したHondaは、「ともに日本代表」である池田空生、長井風雅がジェイテクト打線をノーヒットに抑え込み、19三振を奪う「圧巻のピッチング」を披露。打線も最後その快投に応え、4-1で決勝戦を制し、荣誉ある「天皇盃」を手にした。



Hondaが「延長タイブレークに及ぶ接戦の末、」

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会公式サイトで！

皇后盃 第77回全日本総合女子選手権大会

令和7年9月20日（土）～23日（火・祝）※悪天候のため1日順延
青森県弘前市・平川市／弘前市運動公園野球場（はるか夢球場）他
記録提供：青森県協会記録委員会



10年ぶり5回目の優勝

豊田自動織機 シャイニングベガ（愛知）



優秀選手・切石結女
（トヨタレッドテリアーズ）



大会 MVP・山下千世
（豊田自動織機 シャイニングベガ）

【大会概要】

標記大会が、9月20日（土）～23日（火・祝）の4日間（※悪天候のため1日順延）、青森県弘前市・弘前市運動公園野球場（はるか夢球場）を主会場に開催された。

大会には全国の精鋭32チームが参加。大会初日、4球場を使用し、1回戦16試合を実施する予定であったが、半分の8試合しか実施できず、第3試合が「サスペンデッドゲーム」となったこともあり、変則的な大会運営を余儀なくされ、予備日（9月23日／火・祝）を使用して何とか予定された全日程を終了することができた。

大会には昨年度の「優勝」「準優勝」チームを含む「JDリーグ」の16チームが推薦出場。全国の各地区（プロック）予選を勝ち抜いた大学チーム・11チーム）、日本リーグ所属4チーム、クラブチーム・1チームの計32チームが出場。栄誉ある「皇后盃」をめざし、激戦を繰り広げた。

準決勝には、すべて「JDリーグ」のチームが勝ち上がり、トヨタレッドテリアーズ、豊田自動織機 シャイニングベガの愛知県勢、NECブラットフォールズ Red Falcons（静岡）、Honda Reverta（栃木）の4チームが大会最終日の準決勝に駒を進めた。

〈準決勝〉

NECプラットフォームズ Red Falcons 0 - 1 トヨタ レッドテリアーズ

NECプラットフォームズ先発・山本すみれが毎回のように走者を出しながら粘り強いピッチングでスコアボードに「0」を重ねれば、トヨタは先発・成瀬結衣、「エース」メーガン・ファライモとつなぐ投手リレーで対抗。息詰まる投手戦となり、試合は0-0のまま、最終回を迎えた。

トヨタは7回裏、一死走者なしから3番・切石結女が力投を続ける山本すみれの投じた110球目をとらえ、センター頭上を越えるサヨナラホームラン！ 劇的勝利で決勝進出を決めた。



トヨタが劇的サヨナラ！

〈準決勝〉

Honda Reverta 2 - 3 豊田自動織機 シャイニングベガ

豊田自動織機は2回裏、この回先頭の5番・佐藤友香のソロホームランで先手を取り、続く3回裏にも4四死球で押し出しの1点を追加。2-0とリードを奪った。

2点を追うHondaは4回表、二死から安打で出塁した走者を一塁に置き、6番・渡邊瑞貴がツーランホームランを放ち、2-2の同点に追いつき、試合はそのまま最終回を迎えた。

豊田自動織機は7回裏、一死から2本の安打と四球で満塁とし、4番・マケナ・スミスがサヨナラ安打。粘るHondaを振り切った。



豊田自動織機が決勝進出

〈決勝〉

豊田自動織機 シャイニングベガ 3 - 1 トヨタ レッドテリアーズ

両チーム無得点で迎えた4回表、豊田自動織機は一死から3番・須藤志歩がライト線を抜く三塁打を放ち、先制のチャンスを作ると、続く4番・マケナ・スミスがショート後方へ「力」で運ぶタイムリー！先取点を挙げ、二死後、6番・池上桃花のライトへの当たりがランニングホームランとなり、この回一挙3点を先制。試合の主導権を握った。

トヨタは5回裏、一死走者なしから3番・切石結女が準決勝のサヨナラホームランに続く「2試合連発」の追撃のソロホームランを放ち、1点を返し、2点差に詰め寄った。



豊田自動織機の継投策がズバリ当たった

ここで豊田自動織機ベンチが動き、先発・ダラス・エスコベドに代え、左腕・山下千世を投入。結果的にこの投手交代が功を奏し、山下千世はこの回二死から四球、安打で走者を背負ったものの、このピンチを無失点で切り抜けると、6回裏、7回裏はトヨタ「必死」の反撃を三者凡退に抑え、3-1で逃げ切り、10年ぶり5回目の栄冠！「皇后盃」を手にし、好リリーフの山下千世が「大会MVP」に輝いた。



皇后盃
第77回全日本総合女子
ソフトボール選手権大会
決勝ダイジェスト

2025.9.23 / 青森県弘前市・はるか夢球場



大会結果の詳細、全試合のイニングスコア等は、日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

決勝戦のダイジェスト動画はこちら

第79回国民スポーツ大会

令和7年9月29日（月）～10月1日（水）

成年男子：滋賀県東近江市 成年女子：滋賀県高島市

少年男子：滋賀県草津市 少年女子：滋賀県守山市

記録提供：滋賀県協会記録委員会 写真提供：滋賀県協会



滋賀県勢大奮闘



【種別総合成績／天皇杯(男女総合)・皇后杯(女子総合) 得点成績】

去る9月29日(月)～10月1日(水)の3日間にわたり、第79回国民スポーツ大会ソフトボール競技(わたSHIGA輝く国民スポーツ大会ソフトボール競技会)が開催され、「成年男子」が滋賀県東近江市／東近江市総合運動公園布引多目的グラウンド、「成年女子」が滋賀県高島市／高島市今津総合運動公園第1グラウンド・第2グラウンド、「少年男子」が滋賀県草津市／草津市立野村運動公園グラウンド、「少年女子」が滋賀県守山市／守山市民球場・守山市民運動公園ソフトボール場を会場にそれぞれ開催された。男女総合成績となる「天皇杯得点」は、「成年女子」で15年ぶり3回目となる「優勝」を飾り、「成年男子」でも「第3位」の成績を残した栃木県が1位。「種別総合優勝」を飾り、女子総合成績となる「皇后杯得点」では、「成年女子」「少年女子」とも「第3位」となった開催県・滋賀県が1位となった。

「天皇杯得点」2位は「少年男子」で決勝進出を果たして「準優勝」、「成年男子」が「第3位」となった福島県、3位には「成年女子」「少年男子」でともにベスト4進出。「第3位」となった愛媛県が入った。

「皇后杯得点」2位は「成年女子」で優勝を飾った栃木県と「少年女子」で7年ぶり9回目となる「優勝」を勝ち獲った兵庫県が並ぶ形となった。



成年女子優勝、成年男子3位となり、天皇杯得点(男女総合得点)1位となった栃木県(上)
成年女子・少年女子ともに3位となり、皇后杯得点(女子総合得点)1位となった滋賀県(下)



成年男子 大会概要 ※成年男子、大会結果の詳細はこちら

「成年男子」は東近江市総合運動公園布引多目的グラウンドを会場に熱戦が展開され、開催県「滋賀県」は1回戦で「日本リーグ」所属の埼玉県庁クラブを主体とする「埼玉県」と対戦し、健闘したものの、1－4で敗れ、初戦で姿を消した。

ベスト4には、その「日本リーグ」所属チームである「旭化成」の単独チーム・宮崎県、「Honda」の単独チーム・栃木県、「三重ヴェルデウィン」に大学生を加えた三重県が勝ち上がり、唯一「クラブチーム」（福島ソフトボールクラブ）を主体とする福島県がそれに挑む構図に。「日本リーグ」所属チームを「あと一步」のところまで追い詰める白熱の試合を演じる等、大会を盛り上げてくれた。

優勝は三重県。激戦を制し、「半世紀」もの間、遠ざかっていた優勝を手にした。

〈準決勝〉 福島県 5－6 宮崎県

「クラブチーム」主体の福島県が「日本リーグ」旭化成の単独チームである宮崎県をギリギリのところまで追い詰め、「勝利目前」まで迫った。

福島県は3回表、3番・塩沼泰成、4番・佐藤輝の二者連続ホームラン等で3点を先制し、5回表にも1番・松本智貴がツーランホームランを放ち、5－1とリードし、最終回を迎えた。

宮崎県は7回裏、突如打線が目覚め、1番・永吉飛斗のソロホームランを皮切りに怒涛の5連続長短打。最後は5番・黒木功弥がサヨナラの逆転ツーランホームラン！ 「日本リーグ」勢の意地と底力を見せ、大逆転劇を演じた。



宮崎県が最終回に大逆転

〈準決勝〉 三重県 8－1 栃木県

先攻の三重県は初回、栃木県の実験・長井風雅に襲いかかり、3本の長短打を集中し、4点を先制。終盤6回表には6番・宮本祐道のツーランホームラン、7回表にも3番・上田郁也にツーランホームランが飛び出し、着実に得点を重ね、大量8点を挙げた。

守っては、今大会「投手」に専念している先発・河野拓郎が7回途中まで被安打2、本塁打による失点1のみに抑える好投。最後は酒井匠が締め、8－1の「予想外」の大差で勝利を収め、決勝進出を決め、実に「半世紀」もの間、遠ざかっている「優勝」に王手をかけた。



三重県が大量8点を挙げ、快勝

〈決勝〉 三重県 6－0 宮崎県

三重県は2回表、四球、盗塁等で一死三塁の先制機をつかみ、7番・松浦稜太がライトへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者が生還。ノーヒットで先取点を奪うと、続く3回表には、相手守備の乱れから無死二塁の追加点のチャンスを迎え、2番・宮本祐道の一・二塁間を破るタイムリーで1点を追加。4回表にも安打、犠打で一死二塁と得点圏に走者を進め、9番・井上匠にタイムリーが飛び出し、小刻みに加点し、3－0とリードを奪った。

3点リードのまま、迎えた最終回には、死球、ワイルドピッチ、安打、盗塁で無死二・三塁と攻め立て、3番・上田郁也がライトスタンドへ運ぶスリーランホームラン！ 「主砲」がトドメの一発を放ち、宮崎県の息の根を止めた。



守っては、今大会「投手」に専念し、「絶好調」の河野拓郎が快投乱麻のピッチング。懸命に反撃を試みる宮崎県打線につけ入る隙を与えず、被安打2・奪三振10のほぼ「完璧」な投球内容で「半世紀」ぶりの「優勝」に大きく貢献。三重県が50年ぶり2回目となる「栄冠」を手にし、大会の幕を閉じた。

成年女子 大会概要 ※成年女子、大会結果の詳細はこちら

「成年女子」は高島市今津総合運動公園第1グラウンド・第2グラウンドを会場に開催され、JDリーグ・日本精工 プレイベアリーズに大学生1名を加えた選抜チームで臨んだ開催県「滋賀県」は、初戦で「鹿児島県」(日本女子ソフトボールリーグ所属のMORI ALL WAVE KANOYAの単独チーム)と対戦し、9-2で大勝! 続く「岐阜県」(JDリーグ・大垣 ミナモの単独チーム)との対戦も先手を奪われながら9-4と打ち勝ち、ベスト4進出。

準決勝には、開催県・滋賀県の他、この「成年女子」では過去「優勝」24回と圧倒的な強さを誇る「群馬県」(JDリーグ・ビックカメラ高崎 ビークイーンと太陽誘電 ソルフィューによる選抜チーム)、栃木県(JDリーグ・Honda Revertaの単独チーム)、愛媛県(JDリーグ・伊予銀行 ヴェールズの単独チーム)の4チームが準決勝に勝ち上がり、優勝を争った。

〈準決勝〉 群馬県 5-0 滋賀県

過去、この「成年女子」で24回の優勝を誇る群馬県と、開催県の期待を一身に背負い、熱い声援を受けて戦う滋賀県の対戦は、先攻の群馬県が初回、安打、犠打、安打で一死一・三塁とし、4番・上林藍子のレフトフェンス際まで運ぶ大飛球が犠牲フライとなり、三塁走者が生還。続く2回表にも7番・橋本芽依がソロホームラン! 終盤6回表にも3番・井出久美、4番・上林藍子、5番・炭谷遥香の三者連続ホームランで3点を追加。

守っては、勝股美咲、曾根はん奈とつなぐ投手リレーで滋賀県打線完封。5-0で勝利を収め、決勝へ駒を進めた。



群馬県が一発攻勢で快勝

〈準決勝〉 愛媛県 0-1 栃木県

愛媛県・庄司奈々、栃木県・松下華菜、両投手が一步も譲らぬ投げ合いを展開。4回まで両チーム得点できないまま、試合が進行し、栃木県は5回表から先発・松下華菜に代え、新宮怜美を投入。その裏、試合が動き、栃木県は二死から四球の走者を出すと、9番・山根葉月が右中間を深々と破る三塁打を放ち、一塁走者が一気に還り、試合の均衡を破り、待望の先取点を挙げた。

1点を追う愛媛県も最後まで粘り、最終回、一死から四球の走者を出し、6番・高田明日花の三遊間を抜く安打で一塁走者が三塁まで進塁。ここでダブルスチールを仕掛けたが、三塁走者が本塁慎死。1点に泣き、準決勝で力尽きた。



栃木県が愛媛県に完封勝ち

〈決勝〉 栃木県 6-2 群馬県

後攻の群馬県は初回、安打で出塁した走者を一塁に置き、4番・上林藍子がセンター頭上を越えるツーランホームラン! 初回到2点を先制した。

栃木県はその直後の2回表、こちらも安打で出塁した走者を塁上に置き、8番・棚町佳奈がレフトスタンドに運ぶツーランホームラン。「お返し!」とばかりに本塁打を打ち返し、2-2の同点に追いついた。

これで勢いづいた栃木県は4回表、この回から代わった勝股美咲の制球の乱れにつけ込み、2つの四球で二死一・二塁とした後、二者連続の四球で押し出し。1点を勝ち越して迎えた5回表には、一死からの連打で一・二塁とし、7番・山根葉月がスリーランホームラン!

この「一発」で形勢は一気に栃木県に傾き、先発・新宮怜美が初回に一発を浴びた後は追加点を許さず、最後は松下華菜が締め、6-2で勝利を収め、15年ぶり3回目の優勝を手にした。

栃木県はこの「成年女子」での優勝が大きくモノをいい、「成年男子」でもベスト4進出、第3位となり、「男女総合成績」となる「天皇杯得点」で1位を獲得。種別総合優勝に輝いた。



少年男子 大会概要 ※少年男子、大会結果の詳細はこちら

「少年男子」は草津市立野村運動公園グラウンドを会場に開催され、滋賀学園高等学校を中心に、彦根工業高等学校、栗東高等学校の選手で編成された開催県「滋賀県」は、初戦で鹿児島工業高等学校を主体とし、鹿屋農業高等学校、加治木工業高等学校、薩南工業高等学校の選手を加えた「鹿児島県」と対戦。初回を「0」で終えたときには、健闘の予感もあったのだが……2回以降、大量失点を喫し、0-15の5回コールドで初戦敗退となった。

ベスト4には、高校男子ソフトボール界で「常勝」を続ける長崎県。開催県・滋賀を初戦で破り、「関東の雄」群馬県も大差で下した鹿児島県。初戦は不戦勝、準々決勝で愛知県を4-1で破った愛媛県。初戦で神奈川県に4-2で競り勝ち、準々決勝で北海道に15-0と大勝した福島県。以上の4チームが駒を進めた。

〈準決勝〉 鹿児島県 3-6 長崎県

後攻の長崎県は初回、一死から安打、四球、安打で満塁とし、5番・北川氷悟が押し出しの四球を選び、先取点。続く6番・松尾透真のショートゴロの間に三塁走者が選り、2点目を挙げた。長崎県は続く2回裏にも四球で出塁した走者を内野ゴロ2つで三塁まで進め、2番・持原力のショート内野安打の間に三塁走者が生還。4回裏には、四球で走者を溜め、4番・濱野恵成の適時二塁打等で3点を加え、6-0と大きくリードを奪った。

鹿児島県は5回表、四死球で走者を出し、二死からの3連打等で3点を返したが、反撃もここまで。長崎県が6-3で勝利を収め、決勝進出を決めた。



長崎県が決勝進出！

〈準決勝〉 福島県 2-0 愛媛県



福島県・鈴木大投手が見事な完封勝利

両チーム無得点で迎えた4回表、福島県は一死から4番・大森隼斗がセンター前ヒットで出塁すると、二死後、4連続四死球で押し出し。2点を先制した。

守っては、「エース」鈴木大が力投！ 初回の二死一・二塁のピンチを無失点で切り抜け、リズムに乗り、2回以降はピンチらしいピンチもなく、最後まで愛媛県打線に得点を許さず、完封！ 1995年「地元・福島」で開催された「福島国体」以来、30年ぶりとなる決勝進出を果たした。

〈決勝〉 福島県 0-4 長崎県

長崎県は3回裏、敵失、犠打で一死二塁とし、1番・遠藤隆正の二遊間を抜く安打で一・三塁とチャンスを広げ、一塁走者がすかさず二塁へ盗塁。二・三塁とした後、2番・持原力が長崎県の「専売特許」である「叩きつけるバッティング」で三塁走者を迎え入れ、先取点を挙げた。

長崎県は続く4回裏にも、四球、内野安打の走者を出し、次打者のセカンドゴロの間に走者がそれぞれ進塁。一死二・三塁とし、二死後、8番・平山未来の三遊間を破るタイムリー、9番・北村隆太郎のセカンドへの適時内野安打、ワイルドピッチでこの回3点を追加し、4-0とリードを奪った。



守っては、「エース」北川氷悟が初回から飛ばし、福島県打線をわずか1安打に抑え込み、12三振を奪う力投！ 福島県打線も必死に反撃を試みたが、反撃の「糸口」すら見出すことができず、無念の完封負け。

長崎県が4-0で勝利を収め、13年ぶり4回目となる優勝を勝ち獲った。

少年女子 大会概要 ※少年女子、大会結果の詳細はこちら

「少年女子」は守山市・守山市民球場・守山市民運動公園ソフトボール場を会場に開催された。この大会と同時期の9月27日（土）～10月1日（水）、アメリカ・オクラホマシティで「第15回女子U18ワールドカップ ファイナル」が開催されていたこともあり、「日本代表」として「世界の舞台」で戦うことと引き換えに、高校生活の「最後」を飾り、「集大成」となる「国スポ」には参加できない……という「苦渋の選択」をした選手もいるという「難しい状況」の中で開催された大会となった。

ベスト4には、初戦は不戦勝、準々決勝で北海道に6-0と完勝した開催県・滋賀県。上位進出の「常連」兵庫県。初戦で鹿児島県に5-3、準々決勝で長崎県に3-1と「難敵」を退けてきた福井県。2試合連続の完封で勝ち上がった京都府。以上の4チームが準決勝に駒を進めた。

〈準決勝〉 滋賀県 1-2 兵庫県

地元の熱い声援を背に戦う滋賀県は2回表に先制。5番・澤田芽の左中間二塁打を足がかりに、犠打で走者を三塁へ進め、7番・藪内心都が三遊間を抜くタイムリー！ 先取点を挙げた。

1点を追う兵庫県は7回裏、一死から5番・高谷沖菜、6番・萩原美桜が二者連続の二塁打。土壇場で1-1の同点に追いつき、試合はそのまま、延長タイブレークへともつれ込んだ。

延長8回はともに得点なく、迎えた9回裏、兵庫県はタイブレークの走者がサードゴロの間に三塁へ進み、4番・山下瑠莉がサヨナラのタイムリー！ 粘る滋賀県を振り切り、2-1の劇的サヨナラで決勝進出を決めた。



兵庫県が劇的サヨナラ！

〈準決勝〉 福井県 2-3 京都府

福井県は3回表、安打、盗塁、四球等で二死一・二塁とし、4番・丸山夏葵のピッチャー強襲安打で二塁走者が生還。先取点を挙げた。

京都府もその裏、すぐに反撃。敵失と安打で一死一・二塁とし、4番・藤木結生がレフトスタンドへ逆転のスリーランホームラン！ 3-1と試合をひっくり返した。

2点を追う立場となった福井県は6回表、二死から8番・濱砂杏花、代打・玉木楓夏の長短打で1点を返し、1点差に詰め寄ったが反撃もここまで。

京都府が「主砲」の一振り、「値千金」の一発で粘る福井を振り切り、決勝へ駒を進めた。

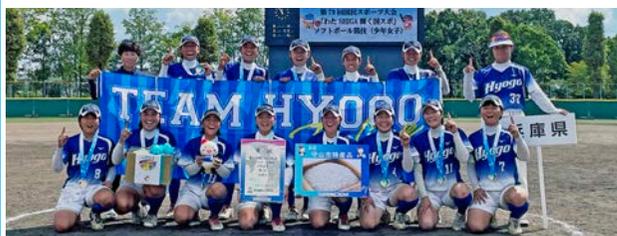


京都府が1点差で競り勝つ

〈決勝〉 兵庫県 3-2 京都府

兵庫県は3回表、二死走者なしから1番・長尾来瞳のレフトスタンドへ運ぶソロホームランで先手を取った。試合はそのまま兵庫県の1点リードで進み、終盤6回裏、京都府は安打で出塁した走者を2つの犠打で三塁まで進め、3番・吉岡涼花の中越二塁打で三塁走者を迎え入れ、1-1の同点に追いついた。

1-1の同点のまま、両チーム譲らず、延長タイブレークに突入。延長8回表、兵庫県はタイブレークの走者を進められないまま、二死となったが、9番・松浦歩花が安打でつなぎ、一・三塁。1番・長尾来瞳が勝負を避けられ、故意四球で歩かされ、満塁となり、ここで2番・山中陽月がレフト前にタイムリーを放ち、二者生還。3-1と2点を勝ち越した。



京都府もその裏、タイブレークの走者が内野ゴロの間に三塁へ進み、1番・森山実咲のショートゴロの間に還り、1点を返したが、後続なく1点どまり。

兵庫県が京都府の追撃をかわし、3-2の1点差で逃げ切り、7年ぶり9回目の優勝を飾った。

第17回全日本エルダー大会

令和7年9月20日（土）～22日（月） 栃木県大田原市／大田原グリーンパーク 他
記録提供：栃木県協会記録委員会



裾野シスターズ（静岡）

初の栄冠に輝く！



優秀選手・服部友美
（Canata elder）



大会 MVP・西島美咲
（裾野シスターズ）

【大会概要】

標記大会が、9月20日（土）～22日（月）の3日間、栃木県大田原市・大田原グリーンパーク・黒羽運動公園多目的広場を会場に開催された。

各都府県の代表35チームが参加。大会初日、6球場を使用し、1回戦・2回戦19試合を行い、2日目は4球場で3回戦8試合、準々決勝・4試合の計12試合を実施。大会最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、無事、全日程を終了した。

大会は初日が雨、2日目は強風に晒されながらも開催地運営スタッフの尽力、選手・チームの理解・協力もあり、悪天候、厳しい気象条件に負けることなく、何とか予定された日程で大会を終了することができた。

準決勝には、ここまでの3試合、すべて二桁得点で勝ち上がった「強打」のライナース（神奈川）。かつて「日本リーグ」で活躍していた「名選手」が揃う裾野シスターズ（静岡）。「好投手」鈴木碧を擁し、こちらも「日本リーグ経験者」を揃え、「連覇」を狙う世田谷クラブ（東京）。結成初年度、初出場で快進撃を続けるCanata elder（東京）。

以上の4チームが名乗りを上げ、大会最終日・最後の戦いに挑んだ。

〈準決勝〉
裾野シスターズ 14-3 ライナーズ



裾野シスターズが序盤に大量得点

裾野シスターズは初回から打線爆発！ 4本の安打に相手守備の乱れも絡み、いきなり大量7点を先制。続く2回表にも8本の長短打を集中し、この日も7点を追加。序盤で大差をつけ、勝負を決めてしまった。

「強打」が売り物のライナーズも初回到4番・廣田垂矢の犠牲フライで1点を返し、3回裏にも3番・志村久美子のタイムリーで1点、4回裏には9番・八城里美の適時内野安打で1点を返したが、焼け石に水。3-14の大差で5回コールド負けを喫し、準決勝で力尽きた。

〈準決勝〉
世田谷クラブ 0-8 Canata elder

東京勢同士の対決となったこの試合、Canata elder は初回、世田谷クラブの先発・鈴木碧の立ち上がりを攻め、相手守備の乱れからチャンスをつかみ、3番・矢部明日香の一・二塁間を抜くタイムリーで先取点。続く2回裏には、2番・田中愛美にスリーランホームランが飛び出す等、序盤で5点のリードを奪い、前年度の覇者・世田谷クラブを圧倒。4回裏にも4本の長短打を集中。3点を追加し、8-0で5回コールド勝ち！

世田谷クラブの「連覇」、レディース大会との「二冠」を阻み、結成初年度、初出場で決勝進出の「快挙」を成し遂げた。



Canata elder が決勝進出

〈決勝〉
裾野シスターズ 5-2 Canata elder

裾野シスターズは2回表、この回先頭の4番・原田真由美のピッチャー返しセンターへ抜ける安打となった後、犠打で走者を二塁へ進め、6番・白井加奈絵の一・二塁間を抜く当たりがライトゴロとなる間に二塁走者が判断良く本塁を陥れ、先取点を挙げた。

Canata elder は3回裏、一死から9番・服部友美が二遊間を抜く安打で出塁。「エース」が自らのバットで反撃の口火を切り、次打者のファーストゴロの間に二塁へ進塁。二死ながら得点圏に走者を進めると、2番・田中愛美が同点のタイムリー！「頼れるキャプテン」の一打で1-1の同点に追いついた。

試合はその後、両チーム一歩も譲らず、1-1の同点のまま延長タイブレークに突入。延長8回表、裾野シスターズは二死満塁から5番・西島美咲が満塁の走者を一掃する適時二塁打。さらに続く6番・白井加奈絵のセカンド内野安打の間に二塁走者が還り、この一回一挙4点を奪い、勝負あった。

その裏、Canata elder の反撃を「エース」白井加奈絵が1点に抑え、5-2で逃げ切り、初の栄冠に輝いた。



裾野シスターズが初優勝！



第17回 全日本エルダーソフトボール大会
令和7年9月20日(土)・21日(日)・22日(月)
裾野県ソフトボール協会

決勝ダイジェスト

決勝戦ダイジェスト動画はこちら

大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は、
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

日本スポーツマスターズ2025愛媛大会

令和7年9月20日（土）～23日（火・祝）愛媛県八幡浜市・西予市／王子の森スタジアム 他
記録提供：愛媛県協会記録委員会

写真提供：愛媛県協会

FUKUOKA DIPPERS (福岡)



念願の初優勝

写真提供：愛媛県協会



全国の精鋭48チームが「頂点」をかけて熱戦展開

「日本スポーツマスターズ2025愛媛大会」ソフトボール競技は9月20日（土）～23日（火・祝）の4日間にわたり、愛媛県八幡浜市・西予市を舞台に開催された。

大会初日（20日／土）に1回戦16試合、2日目（21日／日）に2回戦16試合、3日目（22日／月）に3回戦・準々決勝12試合が行われ、最終日（23日／火・祝）を迎えた。

ベスト4には、FUKUOKA DIPPERS（福岡）、三河Bakabomb（愛知）、久本寺ウエンテラ（長崎）、ナイトウコープレーション（熊本）がそれぞれ勝ち上がり、優勝をかけて最後の戦いに挑んだ。

〈準決勝〉

三河Bakabomb 8-9

FUKUOKA DIPPER

先攻の三河は初回、一死から2番・加藤竜太のライト線を破る三塁打と3番・稲垣一茂のライトオーバーのツーランで2点を先取。さらに四球の後、5番・江口民矢、6番・加藤剛、7番・西森雄の3連続長短打で2点を加え、この回一挙4点を先制した。

FUKUOKAもその裏、安打、死球で無死一・二塁の反撃機を作り、3番・馬場剛史がレフト前にタイムリーツーベース！これに敵失も絡み二者が生還。なお無死三塁の好機が続き、連続四死球で満塁と攻め立てると、ワイルドピッチで3点目。二・三塁となった後、6番・是則仁がセンター前へタイムリーを打ち、相手守備の乱れも絡んで2点を挙げ、逆転に成功。二死後、9番・道脇伸幸にもツーランホームランが飛び出し、この回大量7点を奪った。

試合はその後、三河が2回表に3番・稲垣一茂のタイムリーで1点、3回表にも相手守備の乱れと3番・稲垣一茂のタイムリーで3点を奪い、試合をひっくり返したのだが……。

3回裏、FUKUOKAが7番・田上康晴の左中間を抜くツーベースヒッ

ト、犠打で一死三塁とチャンスを作り、ワイルドピッチで8-8の同点に。なおも四球、安打、死球で一死満塁と塁上が埋まり、3番・馬場剛史が三遊間をしぶとく破るタイムリー！9-8と再び逆転!!ここで90分の制限時間を迎え、試合終了となり、激戦を制したFUKUOKAが2年連続の決勝へ駒を進めた。

〈準決勝〉

ナイトウコーポレーション 2-11

久本寺ウエンテラー

後攻の久本寺は初回、3本の安打に足を絡め、一死満塁と攻め立てると、5番・瀬戸口貴幸のライト前タイムリーでまず1点を先取。続く6番・森勇紀がセンターへ犠牲フライ。これに敵失も絡み、二者が還り、3点を先制した。久本寺は2点を返された後の3回裏にも、無死一・二塁から6番・森勇紀、8番・相川賢次のタイムリーツーベース等で3点、さらに1番・水野哲、2番・吉岡潤一、3番・渡辺高輔の3連続タイムリーで3点を加え、この回大量6点を追加！4回裏には一死一・三塁からダブルスチールを仕掛け、相手守備の乱れを誘って決定的な2点を挙げ、11-2と大量リード。そのまま5回コールド勝ちを収め、「大会連覇」

へ「王手」をかけた。

〈決勝〉

FUKUOKA DIPPER

3-0 久本寺ウエンテラー

昨年と同じ顔合わせになった決勝は、両チームとも一歩も譲らぬ「緊迫した試合展開」となった。

0-0のまま試合は終盤に突入。迎えた6回表、FUKUOKAはこの回先頭の1番・田代研二がライト前ヒットで出塁。2番・村下誠のバント安打、3番・馬場剛史のレフト前ヒットで無死満塁と攻め立てると、一死後、5番・永田英稔のセカンドゴロの間に三塁走者がホームイン。なおも二死一・三塁から、一塁走者が盗塁。二・三塁とし、6番・是則仁のセカンドへの当たりが敵失となり、2点目。さらに二死一・三塁の状況から再び一塁走者が盗塁、一・二塁間で挟殺プレイとなる間に三塁走者が生還し、この回大きな3点を奪い、勝利をグッと引き寄せた。

守っては、先発・山元智己から藤本義樹、尾上博一と3投手をつなぐ「継投策」で久本寺打線に反撃を許さず、そのまま3-0で完封勝利！昨年の雪辱を果たし、見事「初優勝」に輝いた!!



写真提供：愛媛県協会

FUKUOKAが完封勝利！久本寺の連覇を阻み「念願の初優勝」を飾った!!

大会結果・インングスコアは、JSAホームページで！



第20回全日本ハイシニア大会

2025.9.26～29 新潟県新潟市・燕市



悪天候のため準決勝・決勝中止 4チーム優勝

大会概要

標記大会が9月26日（金）～29日（月）の4日間、新潟県新潟市・燕市の両市で開催された。大会には全国都道府県の代表48チームが集い、熱戦を繰り広げた。

大会初日（9月26日／金）は4球場を使用し、1回戦16試合が行われ、大会2日目（9月27日／土）に2回戦16試合、3日目（9月28日／日）に3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を実施。大会最終日（9月29日／月）に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合が行われる予定であったが、最終日があいにくの雨。天候の回復が見込めないと、準決勝・決勝の中止が決定され、ベスト4に勝ち残ったハイシニア八王子クラブ（東京）、スカイライークハイシニア（三重）、レイクユニオンズ（滋賀）、名古屋クラブ（愛知）の4チームが「同時優勝」となった。

準々決勝 ハイシニア八王子クラブ 4－1 呉ハイシニア同好会

後攻の呉ハイシニア同好会は初回、二死走者なしから3番・日浦喜久が右中間に先制のソロホームラン。先取点を挙げた。

1点を追うハイシニア八王子クラブは3回表、こちらも二死走者なしから3番・山下登史がセンター前ヒットで出塁。すかさず二塁盗塁を成功させ、4番・斎藤豊が適時三塁打。1－1の同点に追いついた。これで息を吹き返したハイシニア八王子クラブは5回表、二死走者なしから3番・山下登史、4番・斎藤豊、5番・星野彰の3連続長短打で2点を勝ち越し。6回表にも、四球、犠打失策等からチャンスをつかみ、1点を追加。4－1とリードを広げた。

守っては、「エース」星野彰が初回到ソロホームランを浴び、1点を失ったものの、2回以降は立ち直り、呉ハイシニア同好会に追加点を許さず、4－1で快勝。翌日（9月29日／月）の準決勝・決勝が悪天候のため、中止となり、ベスト4に勝ち残った4チームが「同時優勝」。昨年に続き、2年連続2回目の優勝を飾った。



2年連続2回目の優勝を飾ったハイシニア八王子クラブ

準々決勝 藍住GM 3-8 スカイークハイシニア

後攻のスカイークハイシニアは初回、1番・鈴木明がバント安打で出塁し、すかさず盗塁。ワイルドピッチで三塁へ進み、2番・篠崎和人がスクイズを決め、先取点。さらに続く3番・石本秀喜がライトへ本塁打を打ち、この回2点を先制した。

一方、藍住GMは2回表、二死から四球で出塁した走者が二塁盗塁。7番・光田耕三の三遊間安打で一・三塁とし、ダブルスチールを成功させ、1点を返した。続く3回表にもバント安打、犠打で得点圏に走者を進め、二死後、3番・蔭山富美夫、4番・中川昭治の連打で2点を挙げ、逆転に成功。3-2と試合をひっくり返した。

スカイークハイシニアはその裏、四球、安打等で一死二・三塁とし、3番・石本秀喜が一・二塁間を抜く逆転のタイムリー。5回裏には怒涛の5連打で3点を加え、6回裏にも二死二塁から2番・篠崎和人がダメ押しタイムリーを打ち、1点を追加。8-3と藍住GMを突き放し、そのまま勝利を収めた。



スカイークハイシニアが初優勝！

準々決勝 レイクユニオンズ 2-1 堺ハイシニアクラブ

両チーム無得点で迎えた3回表、レイクユニオンズは二死走者なしから1番・塚本良夫がバント安打で出塁し、すかさず盗塁。2番・小西春治がレフトへタイムリーを打ち、二塁走者が還り、先取点を挙げた。

レイクユニオンズは1-0とリードしたまま、迎えた6回表にも二死一塁から4番・岡本奉公がライト頭上を越える適時二塁打。貴重な追加点を挙げ、2-0と2点差にリードを広げた。

堺ハイシニアクラブもその裏、反撃に転じ、1番・松尾照夫がバント安打で揺さぶりをかけると、この打球を処理した捕手の悪送球を誘い、ボールが外野を転々とする間に打者走者が一気に生還。1点差に迫った。さらに2番・藤山尚志がショート内野安打で出塁し、反撃ムードが高まったが、3番・横澤春男のセカンドゴロがダブルプレイとなり、一瞬にしてチャンスが消えてなくなり、4番・樋口三喜男もセカンドゴロでスリーアウト。この6回裏の攻撃を終了したところで制限時間を迎え、レイクユニオンズが2-1で逃げ切り、「4チーム同時優勝」で2年連続2回目の優勝となった。



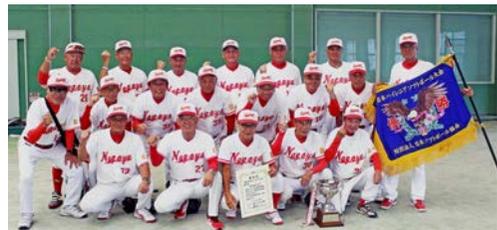
レイクユニオンズが2年連続2回目の優勝

準々決勝 名古屋クラブ 8-0 浦和SG

名古屋クラブは2回表、四球、内野安打、犠打で一死二・三塁とし、8番・横井健一のサードゴロの間に三塁走者が還り、先取点を挙げた。3回表には1番・石川雅英がショート強襲安打を打ち、猛攻の口火を切ると、4本の長短打で大量4点を挙げ、5-0と大きくリードを奪った。勢いづく名古屋クラブは4回表にも敵失から追加点のチャンスをつかみ、1番・石川雅英のタイムリーでまず1点を追加。2番・坪井幸彦がセンター前ヒットで続き、無死一・三塁とし、3番・峰村昇のショートゴロがフィルダースチョイスとなり、2点目。さらに4番・浜江龍之の二遊間安打で無死満塁と攻め立て、一死後、6番・杉山悟のセンターへの犠牲フライで三塁走者を迎え入れ、この回3点目。8-0と大差をつけた。

守っては、先発・峰村昇が浦和SG打線をわずか2安打に抑え込み、得点を許さず、8-0の5回コールドでベスト4進出が決定。

翌日(9月29日/月)の準決勝・決勝が悪天候のため、中止となったため、ベスト4に勝ち残った4チームが「同時優勝」となり、2年ぶり2回目の優勝を飾った。



名古屋クラブが2年ぶり2回目の優勝

【記録提供：新潟県協会記録委員会】

※大会結果・全試合のイニングスコア等は日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第39回全日本シニア大会

令和7年10月4日（土）～7日（火） 福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンター
記録提供：福岡県協会記録委員会



悪天候のため……

4 チーム優勝で閉幕



【大会概要】



今大会は10月4日（土）～7日（火）の4日間にわたり、福岡県福岡市・雁の巣レクリエーションセンターを会場に開催された。大会初日（4日／土）が悪天候により中止・順延。1回戦16試合が大会2日目（5日／日）にずれ込み、3日目（6日／月）に2回戦16試合、4日目（7日／火）に3回戦・準々決勝12試合を行ったが、準決勝・決勝は残念ながら実施できず……。ベスト4に勝ち残った浦和 SG（埼玉）、福岡 KC シニア（福岡）、鳴門クラブ（徳島）、ドゥブプロジェクト（熊本）の「4チーム優勝」で幕を閉じることになった。

〈準々決勝〉浦和 SG 11 - 2 オール一宮シニア

浦和は2回表、この回先頭の4番・佃昌洋が安打で出塁し、代走・浅野貞雄がすかさず盗塁。一死後、犠打で三塁へ進み、捕逸で生還。1点を先制した。浦和は4回表にも、2つの四球と敵失等で一死満塁のチャンスをつかみ、1番・肥沼信行の二遊間を抜く適時打で二者がホームイン。次打者のサード内野安打で再び満塁とし、3番・田中雄公の中前適時打、二死後、暴投で着々と加点。2点を返された後の5回表にも、5本の長短打を浴びせて大量6点を奪い、そのまま11-2で5回コールド勝ち！「17年ぶり2回目」の栄冠を手にした。



「打線好調」の浦和が17年ぶりの栄冠

〈準々決勝〉学企画建設シニア 2 - 8 福岡 KC シニア

先攻の学企画建設は初回、安打、敵失、犠打で一死三塁の先制機を得ると、3番・坂田一昭の三塁線を破る適時二塁打で1点を先取。次打者のサードゴロで二死三塁となった後、5番・浦川勝也のピッチャー強襲タイムリーでこの回2点を先制した。

福岡KCも、その裏、二死二・三塁から5番・永富雅和が中前適時打。二者が還り、2-2の同点に。3回裏にも無死二・三塁の好機で4番・家根茂がライトゴロ、この間に三塁走者が生還し、勝ち越しに成功。なお一死三塁のチャンスが続き、5番・永富雅和の三遊間を破る適時打でもう1点を追加。5回裏にも相手守備の乱れと5番・永富雅和のタイムリー等で2点、6回裏には二死から3連続長短打で決定的な2点を追加。この回を終了したところで90分の制限時間を迎え、福岡KCが8-2で勝利。「初優勝」をつかんだ。



地元・福岡で「初優勝」をつかんだ福岡KC

〈準々決勝〉可児ホークスシニア 1 - 13 鳴門クラブ

鳴門打線が爆発！17安打13得点で「大会3連覇」達成



後攻の鳴門は初回、二死一塁から3番・藤下利彰が左越本塁打を叩き込み、2点を先制。さらに4番・福井和弘、5番・関原隼人、6番・三井幸夫の3連続長短打と8番・清水貞行の左越適時二塁打で2点を加え、この回4点を先制した。1点を返された後の2回裏にも、一死二・三塁の好機で代打・瀧下勉が中越適時二塁打を打ち、二者が生還。5番・関原隼人も左前安打で続き、一・三塁とし、6番・三井幸夫の三遊間を抜く適時打、7番・水田啓一の右翼線への適時二塁打、8番・清水貞行の左犠飛でこの回一挙5得点。9-1と大きくリード！鳴門はその後も、3回裏に3番・藤下利彰のスリーラン、4回裏にも3番・藤下利彰がタイムリーを打ち、追加点を挙げ、13-1と可児ホークスを圧倒!! 4チーム同時優勝ではあるものの、「大会3連覇」を成し遂げた。

〈準々決勝〉朝倉体育会 0 - 7 ドゥプロジェクト

後攻のドゥプロジェクトは初回、四球、盗塁、犠打で一死三塁の先制機をつかむと、3番・本田成司の左越本塁打で2点を先取。さらに4番・岡山聖一が右中間を破る二塁打で出塁。次打者の右翼飛でタッチアップし、三塁へ進塁した後、暴投で生還。この回3点を先制した。

ドゥプロジェクトは3回裏にも7番・北岡義弘の適時打等で2点、5回裏には4番・岡山聖一、5番・辻啓司、6番・上田信弘の3連続長短打で5回得点差コールドゲームを成立させる2点を追加。7-0で完勝し、「初優勝」に輝いた。



「エース」後藤正三が好投し、完封勝利。ドゥプロジェクトが「初優勝」を飾った

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！

第54回日本男子リーグ第4節



激闘の末に……

※通算 14 勝 3 敗という「好成績」で「レギュラーシーズン 1 位」となった平林金属

「第54回日本男子ソフトボールリーグ」の「レギュラーシーズン最終節」となる第4節が、去る10月11日（土）・12日（日）の両日、富山県富山市・熊本県水俣市を舞台に開催された。

今節は文字通り「決勝トーナメント進出（※リーグ戦上位5チーム）を巡る最後の順位争い」が繰り広げられ、激闘の結果、1位・平林金属（通算14勝3敗）、2位・Honda（通算12勝5敗）、3位・三重ヴェルデウイン（通算12勝5敗）／Honda、三重ヴェルデウインが同率で並んだが、直接対決の成績によりHondaの2位、三重ヴェルデウインの3位が決定、4位・ジェイテクト（通算11勝6敗）、5位・大阪桃次郎（通算10勝7敗）という「TOP5」の顔ぶれに。

6位以降はこの第4節をもって「最終順位」となり、6位・高知パシフィックウエーブ（通算10勝7敗）、7位・山口水産（通算10勝7敗）／大阪桃次郎、高知パシフィックウエーブ、山口水産が同率で並び、3チーム間の直接対決の成績もそれぞれ1勝1敗であったが、対戦得失点差により大阪桃次郎の5位、高知パシフィックウエーブの6位、山口水産の7位が決定、8位・豊田自動織機（通算9勝8敗）、9位・旭化成（通算9勝8敗）、10位・トヨタ（通算9勝8敗）／豊田



「最終戦に勝てば、決勝トーナメントへ進めた」
山口水産は「7位」で終戦。来シーズンに期待!

自動織機、旭化成、トヨタが同率で並んだが、3チーム間の直接対決の成績により豊田自動織機の8位、旭化成の9位、トヨタの10位が決定、11位・安川電機（通算8勝9敗）、12位・愛媛ウエスト（通算8勝9敗）、13位・日本エコシステム（通算8勝9敗）/安川電機、愛媛ウエスト、日本エコシステムが同率で並び、3チーム間の直接対決の成績もそれぞれ1勝1敗であったが、対戦得失点差により安川電機の11位、愛媛ウエストの12位、日本エコシステムの13位が決定、14位・デンソー（通算7勝10敗）、15位 大阪・堺グローバル（通算6勝11敗）、16位・SAGAダイワクト（通算5勝12敗）、17位・埼玉県庁クラブ（通算4勝13敗）、18位・熊本嶋田クラブ（通算1勝16敗）の順で今シーズンの戦いを終了した。

第4節終了後、レギュラーシーズン2位のHondaが決勝トーナメント出場を辞退。
（公財）日本ソフトボール協会・リーグ委員会で協議の結果、

※ 3位以下のリーグ戦順位を1つ繰り上げる

※ Hondaの順位付けは行わない

※ 決勝トーナメント出場チームは

- 1位・平林金属、2位・三重ヴェルデウィン、3位・ジェイテクト、
- 4位・大阪桃次郎、5位・高知パシフィックウェーブとして取り扱う

ことが **決定** された





今号公開時期／11月10日には、
最終決戦（決勝トーナメント）を終了！
リーグチャンピオンに輝くのは!?

◎第4節終了時点、 全チーム勝敗・順位

1位 平林金属	14勝3敗
2位 三重ヴェルデウィン	12勝5敗
3位 ジェイテクト	11勝6敗
4位 大阪桃次郎	10勝7敗
5位 高知パシフィックウェーブ	10勝7敗
6位 山口水産	10勝7敗
7位 豊田自動織機	9勝8敗
8位 旭化成	9勝8敗
9位 トヨタ	9勝8敗
10位 安川電機	8勝9敗
11位 愛媛ウエスト	8勝9敗
12位 日本エコシステム	8勝9敗
13位 デンソー	7勝10敗
14位 大阪・堺グローバル	6勝11敗
15位 SAGAダイワアクト	5勝12敗
16位 埼玉県庁クラブ	4勝13敗
17位 熊本嶋田クラブ	1勝16敗
- Honda	12勝5敗

※上位5チームが決勝トーナメントに進出

従前2位のHondaが決勝トーナメント出場を辞退したため、3位以下の順位を繰り上げております



◆富山大会◆

【大会第1日(10月11日) 試合結果】

平林金属 10-8 三重ヴェルデウィン
 トヨタ 11-7 デンソー
 大阪・堺グローバル 2-1 日本エコシステム
 日本エコシステム 7-3 豊田自動織機
 トヨタ 10-8 大阪桃次郎
 埼玉県庁クラブ 8-3 大阪・堺グローバル
 三重ヴェルデウィン 11-5 デンソー
 大阪桃次郎 4-3 豊田自動織機
 平林金属 1-0 埼玉県庁クラブ

【大会第2日(10月12日) 試合結果】

大阪・堺グローバル 9-3 デンソー
 トヨタ 8-4 日本エコシステム
 豊田自動織機 6-3 平林金属
 三重ヴェルデウィン 6-1 埼玉県庁クラブ
 トヨタ 5-2 大阪・堺グローバル
 平林金属 5-2 大阪桃次郎
 豊田自動織機 7-1 デンソー
 日本エコシステム 10-0 埼玉県庁クラブ
 大阪桃次郎 4-3 三重ヴェルデウィン

◆熊本大会◆

【大会第1日(10月11日) 試合結果】

旭化成 4-1 SAGAダイワアクト
 ジェイテクト 9-2 熊本嶋田クラブ
 山口水産 1-0 高知パシフィックウェーブ
 旭化成 5-3 高知パシフィックウェーブ
 山口水産 1-0 Honda
 愛媛ウエスト 2-1 安川電機
 愛媛ウエスト 7-5 SAGAダイワアクト
 ジェイテクト 3-0 Honda
 安川電機 5-4 熊本嶋田クラブ

【大会第2日(10月12日) 試合結果】

愛媛ウエスト 5-3 旭化成
 山口水産 4-2 ジェイテクト
 Honda 1-0 高知パシフィックウェーブ
 熊本嶋田クラブ 7-4 SAGAダイワアクト
 安川電機 5-3 山口水産
 Honda 3-2 愛媛ウエスト
 ジェイテクト 8-2 SAGAダイワアクト
 安川電機 2-0 旭化成
 高知パシフィックウェーブ 7-1 熊本嶋田クラブ

第4節の詳細レポート ダイジェスト動画はこちら!



東地区

戸田中央

初の東地区優勝



ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第12節～第14節・予備節



西地区

トヨタ

4年連続 西地区優勝

第12節

「ニトリJD.LEAGUE 2025」第12節は「東地区」が神奈川県横浜市、「西地区」が福岡県北九州市、「交流戦」が香川県丸亀市の全国3会場で開催された。

通常は「土・日開催」を基本としているが、今節は13日の月曜日が「スポーツの日」で3連休となったこともあり、「東地区」横浜ラウンド、「西地区」北九州ラウンドが「土・日・月」3日間開催となり、「交流戦」丸亀ラウンドのみ、「土・日」2日間の開催となった。

「東地区」では、快調に首位を走る戸田中央が「交流戦」で伊予銀行に0-1のサヨナラ負けを喫したものの、22勝3敗で首位の座は揺るがず。

これを追う2位・ビックカメラ高崎が18勝6敗1分、3位・ホンダが18勝7敗となり、第12節終了時点で、この上位3チームの「ポストシーズン」(プレーオフ以上)進出が決定。11月8日(土)・9日(日)、愛知県名古屋・パロマ瑞穂野球場で開催される「プレーオフ」に進む権利を獲得した。

4位・日立も今節3連勝で通算成績16勝8敗1分と星を伸ばし、「ワイルドカード」(東西両地区「4位」のチームで勝率の高い方が「ワイルドカード

」を手にし、プレーオフ進出の権利を得る)獲得が濃厚となっている。

以下、13勝12敗のデンソーが5位、9勝16敗のNECプラットフォームズが6位、7勝17敗1分の太陽誘電が7位、開幕から未だ勝ち星なく25連敗の大垣ミナモが最下位となっている。

「西地区」では、首位を快走するトヨタが今節初戦でSHIONOGIに6-5で敗れはしたものの、残り2試合に連勝し、通算成績21勝4敗とし、早々に「4年連続」となる「西地区優勝」を決め、11月15日(土)・16日(日)、東京都稲城市・ジャイアンツタウンスタジアムで開催される「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナル進出が決まった。

2位につける豊田自動織機も通算成績16勝9敗とし、「プレーオフ」進出が決定。

一方、「プレーオフ」進出、最後の一枠を巡る「3位争い」が熾烈を極めており、12勝12敗1分で3位のSGホールディングスを、「12勝13敗の同率」に並ぶSHIONOGI、伊予銀行が追いかけている。「ワイルドカード」争いは勝率を考えると「東地区」4位が手にする可能性が高く、「3位」確保が「プレーオフ」進出の条件となりそうだ。

以下、9勝16敗のタカギ北九州が6位、7勝18敗の東海理化が7位、6勝19敗の日本精工が最下位となっている。

ニトリJD.LEAGUE 2025 第12節「東地区」横浜ラウンド 神奈川県横浜市・サーティーフォー保土ヶ谷球場

月日	試合結果					
10月11日(土)	第1試合	NECプラットフォームズ	レッドファルコンズ	0-6	ビックカメラ高崎	ピークイー
	第2試合	日立	サンディーバ	雨天順延	太陽誘電	ソルフィーユ
	第3試合	デンソー	ブライトペガサス	雨天順延	大垣	ミナモ
10月12日(日)	第1試合	太陽誘電	ソルフィーユ	4-0	NECプラットフォームズ	レッドファルコンズ
	第2試合	日立	サンディーバ	7-3	大垣	ミナモ
	第3試合	ビックカメラ高崎	ピークイー	1-6	デンソー	ブライトペガサス
10月13日(月・祝)	第1試合	ビックカメラ高崎	ピークイー	8-2	大垣	ミナモ
	第2試合	日立	サンディーバ	7-6	デンソー	ブライトペガサス
10月14日(火)	第1試合	日立	サンディーバ	1-0	太陽誘電	ソルフィーユ
	第2試合	デンソー	ブライトペガサス	6-2	大垣	ミナモ

ニトリJD.LEAGUE 2025 第12節「西地区」北九州ラウンド 福岡県北九州市・北九州市民球場

月日	試合結果					
10月11日(土)	第1試合	東海理化	チェリーブロッサムズ	1-4	豊田自動織機	シャインベガ
	第2試合	タカギ北九州	ウォーターウェーブ	4-2	日本精工	プレイベアリーズ
	第3試合	SHIONOGI	レインボーストックス	6-5	トヨタ	レッドテリアーズ
10月12日(日)	第1試合	東海理化	チェリーブロッサムズ	3-4	日本精工	プレイベアリーズ
	第2試合	タカギ北九州	ウォーターウェーブ	3-6	トヨタ	レッドテリアーズ
	第3試合	SHIONOGI	レインボーストックス	1-5	豊田自動織機	シャインベガ
10月13日(月・祝)	第1試合	日本精工	プレイベアリーズ	3-4	トヨタ	レッドテリアーズ
	第2試合	タカギ北九州	ウォーターウェーブ	9-5	東海理化	チェリーブロッサムズ

ニトリJD.LEAGUE 2025 第12節「交流戦」丸亀ラウンド 香川県丸亀市・レグザムボールパーク丸亀

月日	試合結果					
10月11日(土)	第1試合	SGホールディングス	ギャラクシースターズ	2-16	戸田中央	メディックス埼玉
	第2試合	伊予銀行	ヴェールズ	4-7	ホンダ	リヴェルタ
10月12日(日)	第1試合	ホンダ	リヴェルタ	9-0	SGホールディングス	ギャラクシースターズ
	第2試合	伊予銀行	ヴェールズ	1-0	戸田中央	メディックス埼玉

第13節

「ニトリ JD.LEAGUE 2025」第13節は、すべて「交流戦」シリーズとして実施され、群馬県高崎市、岐阜県大垣市、愛知県豊田市、兵庫県姫路市の全国4会場で熱戦を繰り広げた。

「東地区」では、戸田中央が今節連勝！ 通算成績24勝3敗とし、「東地区」優勝を決めた。今シーズンは「日本代表」の後藤希友が移籍加入する等、「大型補強」が実り、最終節となる「第14節」を待たずして、初の「地区優勝」が決まり、11月15日（土）・16日（日）、東京都稲城市・ジャイアンツスタジアムで開催される「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナル進出が決まった。

「王座奪還」を期し、我妻悠香、市口侑果ら「オリンピック金メダリスト」を現役復帰させたビックカメラ高崎は「ホーム」で連勝を飾ったものの、20勝6敗1分と戸田中央の「独走」を止められず、2位に甘んじている。3位は19勝8敗のホンダ。4位・日立が今節連勝を飾り、通算成績18勝8敗1分とし、「東地区」が「ワイルドカード」（東西両地区「4位」のチームで勝率の高い方が「ワイルドカード」を手にし、プレーオフ進出の権利を得る）を獲得することが確定。2〜4位の決定は最終節となる「第14節」

までもつれているものの、この3チームの「プレーオフ」進出が決まった。以下、14勝13敗のデンソーが5位、10勝17敗のNECプラットフォームズが6位、9勝17敗1分の太陽誘電が7位、開幕から勝ち星がなく27連敗の大垣ミナモが最下位となっている。

「西地区」は、すでに優勝を決めているトヨタが「東地区」優勝を決めた戸田中央に敗れたものの、通算成績22勝5敗。2位・豊田自動織機も今節1勝1敗で16勝11敗。すでに順位が確定し、気が緩んだわけでもないだろうが……今節は1勝1敗の五分の星に終わった。

一方、「プレーオフ」進出の「最後の一枠」を巡る「3位争い」は激化の一途を辿り、今節連勝の伊予銀行が14勝13敗と星を伸ばし、3位に浮上。13勝13敗1分のSGホールディングスが4位で続き、SHIONOGIが13勝14敗の5位で追走する熾烈・激烈な争いが続き、最終節となる「第14節」までその争いは持ち越され、最後の最後まで目を離すことのできない「デッドヒート」が続くことになる。

以下、9勝18敗でタカギ北九州が6位、7勝20敗の東海理化が7位、6勝21敗の日本精工が最下位の順で続き、レギュラーシーズン「最終節」となる「第14節」を迎えることになった。

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第13節「交流戦」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム			
月日		試合結果	
10月18日(土)	第1試合	太陽誘電 ソルフィーユ	3-2 豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン	2-5 日本精工 プレイブベアリーズ
10月19日(日)	第1試合	太陽誘電 ソルフィーユ	5-1 日本精工 プレイブベアリーズ
	第2試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン	5-0 豊田自動織機 シャイニングベガ

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第13節「交流戦」大垣ラウンド 岐阜県大垣市・大垣市北公園野球場			
月日		試合結果	
10月18日(土)	第1試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	3-4 デンソー ブライトペガサス
	第2試合	大垣 ミナモ	0-4 伊予銀行 ヴェールズ
10月19日(日)	第1試合	伊予銀行 ヴェールズ	3-2 デンソー ブライトペガサス
	第2試合	大垣 ミナモ	1-3 SGホールディングス ギャラクシースターズ

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第13節「交流戦」豊田ラウンド 愛知県豊田市・豊田市運動公園野球場			
月日		試合結果	
10月18日(土)	第1試合	戸田中央 メディックス埼玉	5-0 東海理化 チェリーブロッサムズ
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	5-3 ホンダ リヴェルタ
10月19日(日)	第1試合	ホンダ リヴェルタ	5-1 東海理化 チェリーブロッサムズ
	第2試合	トヨタ レッドテリアーズ	5-12 戸田中央 メディックス埼玉

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第13節「交流戦」姫路ラウンド 兵庫県姫路市・ウインク球場			
月日		試合結果	
10月18日(土)	第1試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	0-1 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第2試合	SHIONOGI レインボーストークス	2-5 日立 サンディーバ
10月19日(日)	第1試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	0-5 日立 サンディーバ
	第2試合	SHIONOGI レインボーストークス	3-1 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ

選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信は JD.LEAGUE 公式サイトで <https://jdleague.jp/>

第14節

「ニトリ JD.LEAGUE 2025」

第14節は、レギュラーシーズン「最終節」として、10月25日（土）・26日（日）

の両日、「東地区」が埼玉県朝霞市、「西地区」が京都府京都市、「交流戦」が愛知県豊橋市で開催。「交流戦」の豊橋ラウンドは予定された試合を行うことができたが、「西地区」京都ラウンドは初日、第3試合が降雨コートとなり、翌日も試合開始時間を遅らせ、12時から試合をスタート。それでもナイター照明を利用し、何とか予定された全日程を消化することができたが、「東地区」の朝霞ラウンドは土・日の2日間とも試合ができず……25日（土）の試合は27日（月）の予備日に試合を行うことができたが、26日（日）の試合は、11月1日（土）、「予備節」として群馬県高崎市・宇津木スタジアムで実施することになった。

この結果、「東地区」は16勝13敗のデンソーが5位、今節、シーズン28試合目にして、「交流戦」東海理化戦に3-0で勝ち、嬉しい「今シーズン初勝利」を挙げた大垣ミナモが1勝28敗最下位の順位は変わらないがシーズンの最後に大きな1勝を挙げた。他の6チームは1試合を「予備節」

に残す形となったが、すでに「東地区」優勝を決めている戸田中央が25勝3敗日立との「直接対決」を制したビックカメラ高崎が21勝6敗1分で「2位」確定。20勝8敗のホンダが3位、18勝9敗1分の日立の4位も確定した。また、現時点では9勝18敗1分の太陽誘電が10勝18敗のNECプラットフォームズを勝率で上回っているが、最終戦の結果次第で順位逆転の可能性も……。一方、「西地区」はレギュラーシーズン全日程を終了し、4年連続「地区優勝」のトヨタが23勝6敗。18勝11敗の豊田自動織機が2位となり、「3位争い」は今節初戦で伊予銀行が敗れ、SGホールディングスが勝利したことで順位が逆転。3位・SGホールディングス、4位・伊予銀行で最終日を迎えたが、まず伊予銀行が最終戦の日本精工戦に6-1で快勝し、通算成績15勝14敗で全日程を終了。SGホールディングスは最終戦のSHIONOGI戦に勝利すれば「3位」で「プレーオフ」進出だったのだが……初回、いきなりの4失点で最終的には2-15の敗戦。通算成績14勝14敗1分で5位に転落。勝ったSHIONOGIが15勝14敗で伊予銀行に並んだが「直接対決」の差で4位となり、9勝20敗のタカギ北九州が6位、7勝22敗の東海理化が7位、6勝23敗の日本精工が最下位でシーズンを終えた。

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第14節「東地区」朝霞ラウンド 埼玉県朝霞市・朝霞中央公園野球場				
月日	試合結果			
10月25日(土)	第1試合	日立 サンディーバ	雨天順延	ビックカメラ高崎 ビークイーン
	第2試合	戸田中央 メディックス埼玉	雨天順延	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第3試合	太陽誘電 ソルフィーユ	雨天順延	ホンダ リヴェルタ
10月26日(日)	第1試合	日立 サンディーバ	雨天順延	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第2試合	太陽誘電 ソルフィーユ	雨天順延	ビックカメラ高崎 ビークイーン
	第3試合	戸田中央 メディックス埼玉	雨天順延	ホンダ リヴェルタ
10月27日(月)	第1試合	日立 サンディーバ	2-4	ビックカメラ高崎 ビークイーン
	第2試合	戸田中央 メディックス埼玉	2-0	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第3試合	太陽誘電 ソルフィーユ	4-6	ホンダ リヴェルタ

※10月26日(日)雨天順延となった試合は11月1日(土)、群馬県高崎市・宇津木スタジアムで実施

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第14節「西地区」京都ラウンド 京都府京都市・わかさスタジアム京都				
月日	試合結果			
10月25日(土)	第1試合	豊田自動織機 シャイニングベガ	1-0	伊予銀行 ヴェールズ
	第2試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	2-0	タカギ北九州 ウォーターウェーブ
	第3試合	SHIONOGI レインボーストークス	3-0	日本精工 プレイベアリーズ
10月26日(日)	第1試合	豊田自動織機 シャイニングベガ	5-3	タカギ北九州 ウォーターウェーブ
	第2試合	日本精工 プレイベアリーズ	1-6	伊予銀行 ヴェールズ
	第3試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	2-5	SHIONOGI レインボーストークス

ニトリ JD.LEAGUE 2025 第14節「交流戦」豊橋ラウンド 愛知県豊橋市・豊橋市民球場				
月日	試合結果			
10月25日(土)	第1試合	トヨタ レッドテリアーズ	1-3	デンソー ブライトペガサス
	第2試合	東海理化 チェリーブロッサムズ	0-3	大垣 ミナモ
10月26日(日)	第1試合	トヨタ レッドテリアーズ	14-0	大垣 ミナモ
	第2試合	東海理化 チェリーブロッサムズ	0-4	デンソー ブライトペガサス

予備節

「ニトリ J.D. LEAGUE 2025」予備節は、レギュラーシーズン「最終節」として開催された「第14節」で悪天候のため、雨天順延となっていた「東地区」の3試合が11月1日（土）、群馬県高崎市で実施された。

これで「ニトリ J.D. LEAGUE 2025」はレギュラーシーズンの全日程を終了。戦いの舞台は「東地区」上位4チーム（東西両地区「4位」のチームで勝率の高かった「東地区」日立が「ワイルドカード」を獲得、「西地区」上位3チームによる「プレオフ」（11月8日（土）・9日（日）の両日、愛知県名古屋市のパロマ瑞穂野球場で開催）、「ダイヤモンドシリーズ」（11月15日（土）・16日（日）の両日、東京都稲城市・ジャイアンツタウンスタジアムで開催）に戦いの舞台が移され、「ニトリ J.D. LEAGUE 2025」のチャンピオンチームを決める「最終決戦」が行われることになる。

「予備節」を終え、「東地区」の最終的な順位・勝敗は、すでに「第13節」を終了した時点で初の「東地区優勝」を決めている戸田中央が25勝4敗、2

位には22勝6敗1分のビックカメラ高崎、3位には21勝8敗のホンダが入り、19勝9敗1分の日立が4位となり、「ワイルドカード」を獲得。5位には16勝13敗のデンソー、6位には10勝19敗のNECプラットフォームズ、7位には9勝19敗1分の太陽誘電、レギュラーシーズン「最終節」となる「第14節」、シーズン28試合目にして「今シーズン初勝利」を挙げた大垣ミナモが1勝28敗で最下位となった。

「西地区」は、トヨタが23勝6敗で4年連続となる「西地区優勝」を飾り、2位には18勝11敗の豊田自動織機、3位にはレギュラーシーズン最終日・最終戦までもつれた「3位争い」を制し、15勝14敗で初の「プレオフ」進出を決めた伊予銀行が入り、15勝14敗の「同率」に並びながら、伊予銀行との「直接対決」の勝敗の差で4位となったSHIONOGI、最後まで激烈な3位争いを演じ、「最終戦に勝ちさえすれば4年連続となるプレオフ進出が決定」という状況下で、しかも「ホーム」開催というアドバンテージがありながら、最終日・最終戦を落とし、14勝14敗1分で5位に転落したSGホールディングスが続ぎ、6位は9勝20敗のタカギ北九州、7位は7勝22敗の東海理化、日本精工が6勝23敗で最下位となった。



ニトリ JD.LEAGUE 2025 予備節「東地区」高崎ラウンド 群馬県高崎市・宇津木スタジアム			
月 日	試合結果		
11月1日(土)	第1試合	日立 サンディーバ	7-2 NECプラットフォームズ レッドファルコンズ
	第2試合	太陽誘電 ソルフィーユ	1-2 ビックカメラ高崎 ビークイーン
	第3試合	戸田中央 メディックス埼玉	3-5 ホンダ リヴェルタ

※10月26日（日）雨天順延となった試合を実施

ニトリ JD.LEAGUE 2025

東地区 予備節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	戸田中央 メディックス 埼玉	25勝4敗	0.862
2位	ビックカメラ高崎 ビークイーン	22勝6敗1分	0.786
3位	ホンダ リヴェルタ	21勝8敗	0.724
4位	日立 サンディーバ	19勝9敗1分	0.679
5位	デンソー ブライトペガサス	16勝13敗	0.552
6位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	10勝19敗	0.345
7位	太陽誘電 ソルフィュー	9勝19敗1分	0.321
8位	大垣 ミナモ	1勝28敗	0.034

西地区 第14節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	トヨタ レッドテリアーズ	23勝6敗	0.793
2位	豊田自動織機 シャイニングベガ	18勝11敗	0.621
3位	伊予銀行 ヴェールズ	15勝14敗	0.517
4位	SHIONOGI レインボーストークス	15勝14敗	0.517
5位	SGホールディングス ギャラクシースターズ	14勝14敗1分	0.500
6位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	9勝20敗	0.310
7位	東海理化 チェリーブロッサムズ	7勝22敗	0.241
8位	日本精工 ブレイブベアリーズ	6勝23敗	0.207

※「西地区」3位・4位の決定は同率で並ぶチーム同士の直接対決の勝敗により決定



© JSL

2位・大和電機 Blue Lakers



1位・静甲

Platinum Section



第58回日本女子ソフトボールリーグ

第4節

令和7年10月10日（金）～13日（月・祝）※雨のため1日順延
 ☆プラチナセクション：栃木県大田原市・美原公園第2球場
 ★サファイアセクション：岡山県新見市・憩いとふれあいの公園
 （新見ピオーネ球場）

2位・VONDS市原 Emerald Green



1位・YKK

Sapphire Section

☆プラチナセクション☆

静甲、10勝3敗でセクション1位
 大和電機が同率ながらセクション2位

★サファイアセクション★

YKK、11勝2敗でセクション1位
 VONDS市原が9勝4敗で2位

●第4節・プラチナセクション概要●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」第4節プラチナセクションは、10月10日（金）～13日（月・祝）の4日間（雨のため、予備日に順延）、栃木県大田原市・美原公園第2球場を会場に開催された。



静甲がプラチナセクション1位に！

第3節を終え、8勝2敗で単独首位に立っていた静甲は今節初戦のCitrine Ichinomiya戦に3-0の完封勝ち。続く昨シーズンの「覇者」MORIAL WAVE KANOYAとの対戦も5-1で勝利を収め、通算成績10勝2敗とし、この時点でプラチナセクション1位が決定した（静甲が最終戦を落とし、3敗目を喫し、3敗で並ぶ可能性のある大和電機が残り試合を「全勝」し、「同率」で並んだとしても、静甲が大和電機との「直接対決」に連勝しているため、リーグ規程により、

静甲の順位が上となる）。結局、静甲が最終戦の花王コスメ小田原戦を落とし、大和電機が今節3連勝で通算成績10勝3敗の「同率」で並び、レギュラーシーズンの全日程を終えたが、前述の通りの順位決定方式のため、静甲の1位は動かず、大和電機が2位となった。

「連覇」を狙ったMORIAL WAVE KANOYAは、今節初戦の花王コスメ小田原戦に延長タイブレークの末、4-3のサヨナラ勝ち。首位・静甲との「直接対決」を迎えたが、両中の「決戦」に1-5で敗れ、4敗目を喫し、最終戦には勝利したものの、通算成績9勝4敗で3位に終わり、この時点で「連覇」の夢が消えてしまった（セクション2位以上にならないと「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Aブロックに進むことはできない）。

4位は8勝5敗の花王コスメ小田原。最後の最後まで上位争いを演じたが、あと一歩及ばず、4位でレギュラーシーズンを終えることになった。

5位は3勝10敗のCitrine Ichinomiya。ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校は今節何度も「勝利目前」まで迫りながら、結局勝ち星を挙げることができず、通算成績1勝12敗で最下位となった。

●第4節・サファイアセクション概要●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」第4節サファイアセクションは、10月10日（金）～12日（日）の3日間、岡山県新見市・憩いとふれあいの公園（ピオーネ球場）を会場に開催された。第3節終了時点で通算成績8勝2敗、「単独首位」に立っていたYKKは、今節初戦、首位争いの「ライバル」小泉病院との「直接対決」に臨み、5-1で快勝。続くペヤング戦も2-1で勝利を収め、通算成績10勝2敗とし、最終戦の試合結果にかかわらず、サファイアセクション「1位」を決めた（同率2位）に並ぶVONDS市原、小泉病院はすでに4敗しているため、残り試合に全勝しても勝ち星の上でYKKに並ぶ可能性がなくなつたため）。YKKは最終戦の厚木SC戦も4-1で勝利し、通算成績11勝2敗まで星を伸ばし、プラチナセクション1位で「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Aブロック進出を決めた。

2位は9勝4敗のVONDS市原。第3節終了時点で3位まで順位を落としていたが、この第4節で3連勝。小泉病院を抜き去り、2位で「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Aブロックに進めることになった。

2位で第4節を迎えた小泉病院は今

節1勝2敗と負け越し、通算成績8勝5敗で3位に終わった。4位は今節「ホーム開催」となった平林金属。厚木SC戦のド派手な大逆転劇はあったものの、スタンドを埋めた地元の大応援団の熱い声援も空しく、1勝2敗に終わり、通算成績5勝8敗。



平林金属の大応援団がスタンドを埋め、熱い声援を送ったが……

5位は通算成績3勝10敗の厚木SC。第4節でも勝ち星を挙げることができなかったペヤングは通算成績1勝12敗の最下位でレギュラーシーズンを終えた。

第58回日本女子ソフトボールリーグ 第4節「プラチナセクション」			
月 日	試合結果		
10月10日(金)	第1試合	Citrine Ichinomiya	0-3 静甲
	第2試合	MORI ALL WAVE KANOYA	4-3 花王コスメ小田原 フェニックス
	第3試合	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	6-8 大和電機 Blue Lakers
10月11日(土)	第1試合	静甲	5-1 MORI ALL WAVE KANOYA
	第2試合	Citrine Ichinomiya	雨天順延 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	第3試合	花王コスメ小田原 フェニックス	雨天順延 大和電機 Blue Lakers
10月12日(日)	第1試合	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1-6 MORI ALL WAVE KANOYA
	第2試合	大和電機 Blue Lakers	3-1 Citrine Ichinomiya
	第3試合	花王コスメ小田原 フェニックス	3-1 静甲
10月13日(月・祝)	第1試合	Citrine Ichinomiya	11-10 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	第2試合	花王コスメ小田原 フェニックス	3-5 大和電機 Blue Lakers

第58回日本女子ソフトボールリーグ 第4節「サファイアセクション」			
月 日	試合結果		
10月10日(金)	第1試合	YKK	5-1 小泉病院 Blue Arrows
	第2試合	VONDS市原 Emerald Green	8-3 平林金属 Peachblossoms
	第3試合	厚木SC	4-3 ペヤング
10月11日(土)	第1試合	平林金属 Peachblossoms	13-4 厚木SC
	第2試合	YKK	2-1 ペヤング
	第3試合	小泉病院 Blue Arrows	1-5 VONDS市原 Emerald Green
10月12日(日)	第1試合	厚木SC	1-4 YKK
	第2試合	ペヤング	2-8 VONDS市原 Emerald Green
	第3試合	平林金属 Peachblossoms	3-4 小泉病院 Blue Arrows

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます



Platinum Section

JSLではソフトボール教室の実施やエスコートキッズの導入等、普及活動にも積極的に取り組んでいる



Sapphire Section

第58回日本女子ソフトボールリーグ			
プラチナセクション 第4節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	静 甲	10勝3敗	0.769
2位	大和電機 Blue Lakers	10勝3敗	0.769
3位	MORI ALL WAVE KANOYA	9勝4敗	0.692
4位	花王コスメ小田原 フェニックス	8勝5敗	0.615
5位	Citrine Ichinomiya	3勝10敗	0.231
6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1勝12敗	0.077

サファイアセクション 第4節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	YKK	11勝2敗	0.846
2位	VONDS市原 Emerald Green	9勝4敗	0.692
3位	小泉病院 Blue Arrows	8勝5敗	0.615
4位	平林金属 Peachblossoms	5勝8敗	0.385
5位	厚木SC	3勝10敗	0.231
5位	ペヤング	1勝12敗	0.077

※プラチナセクション1位・2位の順位決定は同率で並ぶチーム同士の直接対決の勝敗で決定



大会結果詳細、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は
JSL オフィシャルウェブサイト <https://jssl-women.com/>

令和7年度 第3回理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いに行える状態となっていることを確認。

理事25名中出席18名（欠席7名）、監事出席2名（欠席1名）で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認された。

● 審議事項

第1号議案

LA28特別委員会提案事項

岡本専務理事より「LA28特別委員会」からの提案として、女子TOP日本代表チームの活動に関し、次の提案がなされた。

- (1) 令和7年度後期JOC強化指定選手について

令和7年度前半に宇津木麗華ヘッドコーチおよび矢端ダイレクターにより視察、検討された選手24名について名簿が提示され、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）強化指定選手に推薦することが提案された。

また、このことに関し、宇津木麗華副会長より、ヘッドコーチとしての所感が示された。

- (2) 令和7年度後期選手強化活動スケジュール

令和7年度後期の女子TOP選手強化活動日程について、日程変更、追加事業も含め、次のように提案された。

- ・12月4日～17日 第3次国内強化合宿（群馬県高崎市）
- ・1月15日～25日 第4次国内強化合宿（長崎県大村市）
- ・1月25日～2月5日 第1次海外強化合宿（オーストラリア※詳細調整中）
- ・2月中旬 メディカル・フィットネスチェック（JISS）
- ・2月17日～24日 第2次海外強化合宿

（アメリカ※詳細調整中）

なお、本日程について、海外強化合宿は先方との調整が必要であり、また国内については「第20回アジア競技大会」の派遣手続き・メディカルチェックの日程調整等の関係上、若干変動する場合があります。

- (3) 第3次国内強化合宿の参加者について

女子TOP日本代表チーム「第3次国内強化合宿」の選手・スタッフ名簿が提示された。

以上の提案を受け、審議が行われ、審議の結果、「第1号議案」は原案通り承認された。

第2号議案

選手強化本部提案及び報告事項

松田選手強化本部長より「令和7年度選手強化事業計画」の変更、男子U23日本代表チームスタッフの提案、令和7年度上半期の国際大会派遣報告が行われた。

期日：令和7年10月5日（日）

13:00～14:20

場所：東京・新宿/japan

Sport Olympic Square

インターネット会議方式併用

理事現在数：25名

出席理事：18名

欠席理事：7名

出席監事：2名

欠席監事：1名

議長：牧島かれん

〔提案1〕

令和7年度選手強化事業計画の変更

男子U23日本代表選手選考会の事業追加を提案。

令和7年6月にタイで行われた「男子U23アジアカップ」でU23大学男子日本代表（一般社団法人全日本大学ソフトボール連盟による派遣）が優勝し、出場権を獲得。また、「第2回男子U23ワールドカップ」の日程・会場が、令和8年4月25日～5月3日にコロンビア・シンセレホに決定したことから、その大会に出場する選手を選考するため、令和7年12月2日～5日、高知県高知市で選手選考会を実施することを提案。

〔提案2〕

男子U23日本代表チームスタッフ

前述の大会のチームスタッフについて、ヘッドコーチ・中村健二氏（大阪桃次郎）、アシスタントコーチ・浦本大嗣氏（Honda）、平本拓朗氏（環太平洋大学）、トレーナー・岡山雄太氏（大阪桃次郎）とすることが提案された。

〔報告〕 国際大会派遣報告

〔男子〕

① 第18回男子ワールドカップ

ファイナル

（カナダ・プリンスアルバート）

② 第12回ワールドゲームズ

（中国・成都）

※ワールドゲームズ男子にチームリーダーとして帯同した松田本部長より、大会報告が行われ、金メダルを獲得した功績を称え、先日の天皇盃（神奈川県）総合開会式において特別セレモニーが実施されたことが報告された。

また、金メダル獲得の要因として、海外でプレイする選手との「情報共有」、ベテラン選手の「リーダーシップ」が挙げられ、今後の課題として、協会が海外で活動する選手をいかに効果的にバ

ックアップできるか、その方策を検討していく必要性について提言された。

〔女子〕

〔女子TOP〕

① 第14回アジアカップ

（中国・西安）

② 第12回ワールドゲームズ

（中国・成都）

第2回女子ワールドカップ

（イタリア・レニャーノ、

カロンノベルトゥゼッラ）

〔女子U18〕

第15回女子U18ワールドカップ

ファイナル

（アメリカ・オクラホマシティ）

※女子U18ワールドカップファイナルについては、チームリーダーとして参加した宇津木麗華副会長より、より詳細な報告書が提出され、3年後のオリンピックにもつながる可能性のある将来有望な選手の活躍が報告された。

また、カナダやアメリカ等のナショナルチーム監督も本大会を視察しており、ジュニア育成の戦略的重要性についても言及し、ナショナルチームとの連携強化の必要性を指摘。国際戦略として、ワールドカップ・グループアステ

ジ開催地・割り振り等についての要望・交渉（JDRリーグと両立可能な日程を模索）、また、アメリカチーム、協会関係者と「日米対抗」の開催を協議したことが報告された。

以上の提案・報告を受け、審議が行われ、「第2号議案」は原案通り承認された。

第3号議案

全銀協ADR審議結果について

岡本専務理事より、基本財産3億円のデリバティブ契約に関するADR（裁判外紛争解決手続）の審議結果について報告された。

本年7月8日に、契約内容（満期2046年、2050年）について、契約締結時に十分な説明がなされていなかったことを理由にADRの申し立てを行った経緯が説明された。

ADRの結果として、中途解約時の損失額約6千万円に対し、金融機関（三菱UFJ信託銀行）側の負担は15%（約910万円）に留まる。これにより日本ソフトボール協会側の負担は、現金損失分として約5千万円、これに既受取利息3千万円を加えた合計8千万円となる厳しい内容。

この結果を受け、中途解約は多大な

損失を確定させるため、満期まで契約を継続する以外に選択肢はないとの見解が示された。

これに関し、八田常務理事から、契約当時に加入していた「役員賠償責任保険」の適用可能性について質疑があり、事務局がこの点を調査し、後日報告することが確認された。

審議の結果、現時点での中途解約は多大な損失を確定させるため困難であると判断し、「満期まで契約を維持する」方針が承認された。

付帯事項として、役員賠償責任保険の適用可能性について調査を進めていくことが確認・了承された。

第4号議案

ダイヤモンドパートナー

契約について

岡本専務理事より、令和8年度の日本代表協賛見込みが示され、その中で、伊東副会長より紹介を受けた「オリエンタルバイオ株式会社」と2026年から2028年の3年間、ダイヤモンドパートナー契約（主な権益として、女子TOP日本代表チーム試合ユニフォームの左袖に企業ロゴ掲出）を締結することが提案され、承認された。

その他についても、継続して協賛セー

していくので、理事各位にも心当たりがあれば紹介したいとの話があった。

**第5号議案
2026**

**愛知・名古屋アジア競技大会
国内競技役員の選定について**

岡本専務理事より、2026愛知・名古屋アジア競技大会の国内競技役員について、7月28日の常務理事会で了承済みであり、組織委員会には名簿を提出済みであるが、アジア連盟より、副審判長について国際資格を有する者とする旨の追加連絡があったため、審判ルール委員の岡野秀子氏とすることが提案され、承認された。

**第6号議案
公式記録員規程の改定について**

西常務理事より、記録委員会からの提案として、第1種公式記録員の減少により、全国大会やリーグで従事する記録員が不足していることから、第2種公式記録員の任務について、「支部記録委員長が認めた場合」に限り、全国大会の記録業務に携わることができるようになること。

併せて、認定会の開催日の関係で、例年同じ時期に認定会が行われており

選考会参加資格に1日足りない……といったことが起こっていることから、第2種公式記録員資格取得の1年経過の解釈として『応答月』とし、受験機会に柔軟性を持たせることについて、規程を改定すること。

以上、2点の規程改正が提案され、承認された。

これに関連し、瀬戸山常務理事より、審判員の認定も同様であることから、審判ルール委員会に、公認審判員規程についても同様の対応とすることが求められ、神谷審判ルール委員長から今後改正の提案を検討する旨の回答があり、「第6号議案」は原案通り承認された。

**第7号議案
公認指導者規程の改定について**

瀬戸山常務理事より、指導者委員会からの提案として、①令和7年度で準指導員資格の最後の有効期限が満了するため、規程上の「公認ソフトボール準指導員」に関するすべての記述を削除すること。②公認スタートコーチ（教員免許状所持者）に関する規程内の記述が「所持者」ではなく「保持者」となっていたことから、文言修正をする。③競技会における指導者資格の確認に際し、取得資格名・登録番号と

していたところを、資格名「MYJS PONナンバー」等に修正すること。以上が提案され、承認された。

また、関連事項として、瀬戸山本部長が不在であった指導者委員会において、大会参加において監督が必ず指導者資格を有する旨の提言がなされており、委員会議事録にも記載されているが、都道府県支部において混乱が生じかねないことから、常務理事会でいったん保留としたことが報告された。

**第8号議案
日韓ジュニアスポーツ交流事業
チーム派遣について**

岡本専務理事より「令和7年度日韓ジュニアスポーツ交流事業」のチーム派遣について、次の提案がなされた。

(1) 派遣チーム

第43回全国高等学校女子選抜大会優勝チーム・千葉経済大学附属高等学校（選手16名、ヘッドコーチ、アシスタントコーチ）、

(2) 帯同スタッフ

チームリーダー…松田和広選手強化本部長、トレーナー…庭瀬佳那子氏（Niwa Care）、事務局より今井優花事務局員を派遣。

(3) 派遣期間、11月25日～11月30日

(4) 派遣先：韓国・釜山
なお、チーム受入については8月8日～13日、千葉県千葉市において、同校をホストとして実施したことが報告された。

以上の提案を受け、審議が行われ、審議の結果、「第8号議案」は原案通り承認された。

・その他

全日本大会日程の変更について

瀬戸山常務理事より、群馬県協会から、令和8年3月に群馬県渋川市にて開催予定の「JOCジュニアオリンピックカップ」第22回都道府県対抗全日本中学生女子大会の開催日程について、開会式開催会場の確保が3月26日しかできなかったことから、大会日程を1日前倒しし、3月27日（金）～3月29日（日）とし、また、準決勝・決勝戦については高崎市ソフトボール場（UTSUGIスタジアム）とすることが提案され、了承された。

**国民スポーツ大会における
競技ルールの検討について**

鈴木常務理事より、国スポにおいて

は、J Dリーグ所属選手を擁するチームと大学主体のチームとの実力差が大きく、20点差前後が開く試合も見られることから、5回7点差以外の、いわゆるオフィシャルルールのコールドゲーム規定を適用すべきではないかとの問題提起があったが、導入には慎重な検討が必要であるとし、今後継続して検討していくことが確認・了承された。

また、国スポの関連事項として、瀬戸山常務理事より、選手変更時の診断書について、大会前の選手変更時に、従来必須とされていた「診断書」の提出がなくなったことに関しての説明が求められた。

これに対し、事務局より、今大会の実施要項より不要となっている点が改めて説明された。ただし、都道府県のスポーツ協会によっては提出を求められる場合があるため、各都道府県ソフトボール協会と各都道府県スポーツ協会との連絡連携が必要であることが併せて説明された。

●報告事項

(1) 各委員会・部会

プロジェクト報告

(総務委員会)

瀬戸山常務理事より、9月3日に開

催された「第2回総務委員会」の議事録が配布され、討議内容の詳細が説明された。

小中学生の全国大会における熱中症対策(暑熱対策)として、従来の夏季開催から秋季(10月の3連休等)への移行を検討しており、来年度、試行大会として10月後半に男女別で大会を実施する計画が進行中であることが報告された。

(指導者委員会)

瀬戸山常務理事より、8月6日に開催された「第1回指導者委員会」の議事録が配布され、討議内容が説明された(第7号議案で説明済み)。

(リーグ委員会)

西常務理事より、8月27日に開催された「第1回リーグ委員会」の議事録が配布された。

討議内容については、主に令和8年度のリーグ日程等について協議したことが報告された。

(医事委員会)

西常務理事より、3月9日に開催された「令和6年度第2回医事委員会」の議事録が配布され、既に運用されている「暑熱対策」について審議されたことが報告された。

(2) 寄付について

岡本専務理事より、宇津木妙子副会長が2011年に設立、14年にわたりソフトボールの普及のために活動を行ってきたNPO法人「ソフトボール・ドリーム」が解散となったことが報告された。残余財産について、約300万円をLA2028五輪に向けた女子TOPチームの強化および国際事業活動のために、公益財団法人日本ソフトボール協会に寄贈してくださったことが報告され、牧島会長以下全出席役員より謝意が示された。

また、岡本専務理事より「一般社団法人ビューティー創生本部より、アングラカテゴリーを含む女子日本代表選手の活動支援として、100万円、および物品提供として、シャンプルー、ハンドクリーム等の製品を提供していただいていることが報告された。

(3) 旅費(宿泊代)の取り扱いについて

岡本専務理事より、6月の「第2回理事会」で示した内容について、再度周知徹底するため、旅費(宿泊代)の取り扱いについて、改めて説明があり、

遵守するよう要請された。

昨今のホテル宿泊代の高騰により現状の旅費規程である1万円では賄えないという意見が多く聞かれることから、現在の事業計画に基づく予算で宿泊代追加を試算した結果、一律で2千円上げた場合、500万円の追加予算が必要となる。財源が無い以上、一律での改定は実施できないことが改めて説明された。

ただし、日本協会が派遣を依頼するリーグや全日本大会において、事前に「本部宿舎」が確定しており、その宿泊代が1万円を超えることが確定している場合、主管協会より事前に申告し、事前決裁を得られた場合に限り、事業終了後に領収書原本を事務局に送付する、もしくは請求書を送付することにより、実費弁済を行うことが改めて確認・了承された。

・その他

事務局組織業務分担について

岡本専務理事より、10月1日付の事務局組織業務分担表が示され、10月以降の業務分担について説明・確認され、了承された。

ソフトボール シーズンクライマックス！



終わりは……始まり！

ソフトボールシーズンもいよいよクライマックス。この号が発行される頃には全日本大会は競技種別・生涯種別ともすべて終了し、日本リーグは男子・女子ともに「決勝トーナメント」「順位決定節」を終了。優勝チームが決定していることだろう（記事掲載はメ次の都合上、次号となる）。

また、「JDリーグ」も「プレイオフ」を終え、「最終決戦」となる「ダイヤモンドシリーズ」を残すのみとなっているはずである。

シーズンの終了とともに、「表舞台」を去り、「第二線」から退く人もいる。選手はいつか「現役引退」のときを迎え、長く「リーグ審判員」として活躍された方が、その舞台を後にしていくこともある。ただ……それは決して「終わり」ではない。「JDリーグ」や「日本リーグ」での現役生活を終えても、指導者やアナリスト、チームスタッフとしてソフトボールに携わる道もある。あるいは審判員として、公式記録員として、また違った立場でソフトボールを支え、「世界の舞台」をめざすこともできる。この機関誌でもお伝えしてきたように、「日本代表」や「リーグの選手」として活躍した皆さんが「生涯種別」でソフトボールを「楽しむ」姿も見られる。そう……「終わりは始まり」。ここからが「スタート」です！

日本男子・女子リーグ JDリーグ



全日本大会



事務局だより

「2025WBSC総会」報告

去る10月16日（木）～19日（日）、タイ・バンコクにて世界野球ソフトボール連盟（WBSC）の「第6回定時総会」が開催され、（公財）日本ソフトボール協会より宇津木妙子副会長、岡本友章専務理事兼事務局長、久下知宏事務局次長らが出席。

本総会の「役員改選」で、宇津木妙子氏のWBSC執行理事会・ソフトボール無任所理事「再選」が決定（※2014年WBSC設立時の就任から4期目。任期は2029年総会までとなる）。

さらにWBSCより宇津木氏へ「長年のソフトボールへの功労」と「多大なる国際的な活躍」をたたえ、「特別表彰・ゴールデンダイヤモンド勳章」が授与された。

※WBSCゴールデンダイヤモンド勳章とは、野球・ソフトボールの理想的な発展をめざし、競技の視野を広げ、新たな取り組みや研究で卓越した業績を残した人物に贈られるもの



WBSC執行理事会・理事に再選。「特別表彰」も受けた宇津木妙子氏

また、各種表彰においても、（公財）日本ソフトボール協会へ「2023第1回女子U15ワールドカップ開催感謝プレート」が贈られ、男子U18日本代表・田中徹浩ヘッドコーチ（※2023男子U18ワールドカップ優勝監督）が「2023最優秀コーチ」、同じく男子U18日本代表・津田龍輝選手（※2023男子U18ワールドカップMVP）が「2023最優秀選手」に。女子TOP日本代表・宇津木麗華ヘッド



「2023最優秀」に輝いた男子U18日本代表・津田龍輝選手（左）と田中徹浩ヘッドコーチ（右）



コーチ（※2024女子ワールドカップ優勝監督）は「2024最優秀コーチ」、同じく女子TOP日本代表・上野由岐子選手（※2024女子ワールドカップMVP）は「2024最優秀選手」に選出された。



女子TOP日本代表・上野由岐子選手（左）と宇津木麗華ヘッドコーチ（右）は「2024最優秀」の荣誉に！